平成24年度　徳川園紅葉祭　小学生・中学生俳句大会

平成24年11月22日から12月2日まで「徳川園紅葉祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句数にして558句のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品　小学生の部2句、中学生の部2句、入選作品　小学生の部6句、中学生の部6句を次のとおりに決定いたしました。

◆審査会委員（五十音順）

井澤　昭雄（四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人）
加藤　啓子（公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館　企画情報部　課長）
桐原　千文（名古屋市蓬左文庫　文庫長）
岩田　正雄（公益財団法人 名古屋市みどりの協会 徳川園管理事務所 所長）

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校（東区）四年　草間　美咲

虫の音に　あわせておどる　いけの月

秋の夜長に響く虫の音と池に映った月の揺らめき、「あわせておどる」という一見不似合いな表現がかえって静寂な秋の夜の雰囲気を伝えています。作者は、この徳川園俳句大会入賞者の常連さんです。今回は、昨年より少し大人びて、この作者らしい愛らしい表現が光ります。

【審査員　桐原　千文】

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校（東区）三年　辻川 新大

こうようを　池がうつして　落ちていく

鮮やかな赤や黄色のもみじ、水面からうつし出される景観、そして秋の風に誘われ一葉が池におちる姿、静かにもみじがただよう情景を遠近感と動きをやさしく表現され、心に残る詩であると感じました。作者は龍仙湖に浮かぶきれいな紅葉をゆっくりと楽しまれたことと思います。

【審査員　岩田 正雄】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 冨士中学校（東区）三年　加藤 あまね

散る紅葉　土に還りて　春を待つ

紅葉が散り、秋から冬へ季節がかわり、心寂しくなります。しかし、紅葉は土の上にたい積し、土の肥料となり、春には新しい命を芽生えさせます。色鮮やかな紅葉が厳しい冬を耐え、春という希望にかわるという、筆者の祈りともいえる気持ちが伺えます。

【審査員　加藤 啓子】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 矢田中学校（東区）三年　杉山 礼美

朝寝坊　枯れ葉を踏んで　走り出す

昨日の部活の疲れでしょうか。朝寝坊してしまった。通学路の降り積もった枯葉を踏みながら急ぎ足、そして枯葉を蹴散らしながら駆けて行く溌剌とした女子中学生の姿が瞼に浮かびます。

【審査員　井澤 昭雄】

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 筒井小学校（東区）二年　岩田 渚

ありさんも　せっせとじゅんび　ふゆじたく

名古屋市立 旭丘小学校（東区）三年　熊澤 香帆

秋風が　うん動場で　遊んでる

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 矢田小学校（東区）三年 古川（ふるかわ） ひまり

ひらひらと もみじのダンス さそわれて

名古屋市立 旭丘小学校（東区）四年 加藤（かとう） みなみ

こいおよぎ もみじもおよぐ 池の中

名古屋市立 山吹小学校（東区）五年 藤田（ふじた） 力丸（りきまる）

虫の声 寒さこらえて ふるえてる

名古屋市立 旭丘小学校（東区）六年 守山（もりやま） 輝一郎（きいちろう）

舞い落ちる もみじは秋の 信号機

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 汐路中学校（瑞穂区）一年　西尾（にしお） 泉美（いずみ）

紅（くれない）に　水面（みなも）を染める　秋だより

名古屋市立 冨士中学校（東区）一年　吉田（よしだ） 涼香（すずか）

帰り道　秋刀魚の香りに　急ぎ足

私立 東海中学校（東区）三年　伊藤（いとう） 善輝（ぜんき）

通学路　眠けを覚ます　紅葉（もみじ）かな

名古屋市立 矢田中学校（東区）三年　桐山（きりやま） 剛（つよし）

ひらひらと　もみじもつかる　露天風呂

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 あずま中学校（東区）三年　武田（たけだ） 梨花（りか）

虫の音と　一夜を越える　受験生

私立 東海中学校（東区）三年　野原（のはら） 俊平（しゅんぺい）

恋したい　あの赤色の　葉のように

《総評》

徳川園の俳句大会に参加していただいた小、中学生の皆さん、どうもありがとうございました。俳句大会は昨年春の牡丹祭に次いで第三回目となります。今回のテーマは「秋」でしたので「紅葉」を詠んだ句が多かったですが、「あかとんぼ」や「虫」「落ち葉」など、さまざまな視点で作者の秋をとらえた句も多くありました。

さて、今回の最優秀作品に選ばれた四点は、いずれも魅力的ですばらしいものでした。小・中学生の皆さんには、どうしても学年による表現力の違いがありますので、審査の観点としては、俳句の専門的な決まり事にこだわらなく、年齢に応じた言葉で表現されていることなどを考え、審査員の心に強く残ったものを選考しました。優秀作品はもちろんのこと、他の入選作品や選に漏れた作品の中にも心に留まる表現をされた作品も多々あったように感じております。

徳川園および徳川美術館、名古屋市蓬左文庫は、尾張徳川家由来の歴史文化施設として、中世武家文化の魅力を国内外の皆さまに発信していくことが役割であります。このような自然、歴史、文化的環境の場所で、四季の情景を「俳句」で表現することは感性を育む大切な時期である小・中学生の皆さんにとって言葉を大切にする機会になったのでは、と思います。

最後に、今回の大会で小・中学生の皆さんが俳句を考えるにあたって、助言や指導をしていただいた保護者、学校教員の方々に厚く御礼申し上げます。今後も子どもさんが自ら感性や想像を言葉に表現する楽しみにご一緒に参加していただけることをお願いいたします。

審査会代表　徳川園管理事務所長　岩田 正雄